

# トヨタは、「トータルクリーン」をめざしています。



「トータルクリーン」を基本理念に、環境に配慮したクルマづくりを進めています。生産から廃棄にいたるトータルライフの視点により、環境への取り組みのひとつひとつをすべての過程で連携させ、クリーンなクルマづくりをめざします。さまざまな環境目標を、バランスを取りながら達成し、総合的に環境性能の向上を図ります。

## ■ 地球温暖化対策を実施しています。

- 温室効果ガスであるCO<sub>2</sub>排出量の低減をめざして、軽量・高効率なエンジンを搭載。さらに、Super CVT-i(自動無段変速機)などの採用により、低燃費を達成しています。
- エアコンの冷媒充填量を低減。さらに、冷媒にオゾン層を破壊しない代替フロンHFC-134aを採用しています。

## ■ 都市環境のクリーン化に配慮しています。

- 三元触媒、Dual VVT-i、空燃比補償装置などの採用により、排出ガスのクリーン化を推進。その結果、全車「平成17年基準排出ガス75%低減レベル」の認定を国土交通省より取得しています。



(全車)

## ■ VOC<sup>\*2</sup>を低減しています。

- 内装部品の素材、加工法、接着剤の見直しにより、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエンなどの揮発性有機化合物(VOC)の発生量を抑制。車室内の臭いや刺激臭を軽減するとともに、厚生労働省が定めている「室内濃度指針値」を下回るレベルとし、業界自主目標を達成。車室内空気質の快適性に配慮しました。

## ■ 環境負荷物質を削減しています。

- 鉛、水銀、カドミウム、六価クロムを削減し、業界自主目標を達成しています。

\*1.Eco-VAS[エコバス]:Eco-Vehicle Assessment System。車両開発責任者が企画段階で生産、使用、廃棄にいたるLCA(ライフサイクルアセスメント)の考え方を踏まえた環境目標値を設定。全開発プロセスを通じて目標達成状況をフォローして、確実な達成を図る総合的な環境評価システムです。

\*2.VOC:Volatile Organic Compounds

## トヨタ プロボックス 環境仕様

	車両型式		DBE-NSP160V	DBE-NCP160V		DBE-NCP165V
車両仕様	型式	JC08モード	1NZ-FE	1NZ-FE	1.496	
	エンジン	総排気量(L)	1.329			
駆動装置	燃料			無鉛レギュラーガソリン		
	駆動方式			2WD(前輪駆動方式)	4WD(四輪駆動方式)	
環境情報	駆動装置	変速機		Super CVT-i(自動無段変速機)		
	燃料消費率	JC08モード 参考	燃料消費率※1 (km/L) CO <sub>2</sub> 排出量 (g/km)	17.6 132	19.6 118	18.2 128
				「平成27年度燃費基準※2」をクリアしています。		
環境情報	主要燃費改善対策		自動無段変速機、充電制御、可変バルブタイミング、電子制御式燃料噴射、電動パワーステアリング	自動無段変速機、充電制御、可変バルブタイミング、電子制御式燃料噴射、電動パワーステアリング、アイドリングストップ機能	自動無段変速機、充電制御、可変バルブタイミング、電子制御式燃料噴射、電動パワーステアリング	
	排出ガス	認定レベルまたは適合規制(国土交通省)	CO NMHC NOx		SU-LEV※3※4 1.15 0.013 0.013	
		認定レベル値または適合規制値 (g/km)				
	車外騒音(加速/定常/近接)	(dB)		73/68/90		
	冷媒の種類/使用量(g)			HFC-134a/370		
環境負荷物質削減	環境負荷物質削減	鉛 水銀 カドミウム 六価クロム		自工会2006年自主目標達成(1996年比1/10以下※5) 自工会自主目標達成(2005年1月以降使用禁止※6) 自工会自主目標達成(2007年1月以降使用禁止) 自工会自主目標達成(2008年1月以降使用禁止)		
	車室内VOC			自工会自主目標達成		

\*1. 燃料消費率は定められた試験条件のもとでの値です。お客様の使用環境(気象、渋滞等)や運転方法(急発進、エアコン使用等)に応じて燃料消費率は異なります。 \*2. 省エネ法に基づき定められている燃費目標基準 \*3. JC08モード走行 \*4. 平成17年基準排出ガス75%低減レベル \*5. 1996年乗用車の業界平均1,850g(バッテリーを除く)。 \*6. 交通安全の観点で使用する部品(ナビゲーション等の液晶ディスプレイ、コンビネーションメーター、ディスチャージランプ、室内蛍光灯)を除く。